

令和4(2022)年度 IAMASの概要説明





情報科学芸術大学院大学

Institute of Advanced Media Arts and Sciences

— 目次 —

組織の概要	3
活動の概要	10
運営の概要	25

IAMAS の目的

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] は、科学的知性と芸術的感性の融合を目指した学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、未来社会の新しいあり方を創造的に開拓する「高度な表現者」を養成するとともに、学術文化の向上及び地域の振興に寄与することを目的に、岐阜県が2001年に開学した大学院大学です。



今谷真太郎（修士2年）『ARコミック「通学路」』
 (2020アジアデジタルアート大賞展FUKUOKA 学生カテゴリー
 エンターテインメント(産業応用)部門 大賞/福岡県知事賞
 第27回学生CGコンテスト アート部門 ノミネート)

- 沿革

- 1996 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) を設立

- 2001 情報科学芸術大学院大学を開設
 メディア表現研究科 (修士課程) を設置
 大学附属研究機関メディア文化センター (CMC) を設置
 大学附属図書館を設置

- 2005 リンツ美術工芸大学と交換留学生協定

- 2010 メディア文化センター (CMC) を産業文化研究センター (RCIC) に改名

- 2012 岐阜県行政改革アクションプランにより国際情報科学芸術アカデミーを廃止

- 2014 ソフトピアジャパン地区へ、全学移転

- 2021 メディア表現研究科 (博士後期課程) を新設

教 育 目 標

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力を授け、現代社会の諸問題に応答できる人の育成を教育目標として掲げています。

- 学位授与方針（ディプロマポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、科学技術と哲学・思想的視野をともなう新しい文化を創造する高度な表現者の育成を目標とし、その目標のために編成されたカリキュラムにおいて、所定の単位を取得することに加え、論文審査あるいは作品・論文審査、及び最終試験を合格した学生に修了を認定し、学位を授与します。

その際、以下の点が問われます。

- 専門性を有した自立したアーティスト・デザイナー・エンジニア・研究者・教育者として、必要な能力を身につけたか。
- 高い倫理性と強い責任感を意識し、未来の人間の生き方、幸福を追求しながら、研究が現代社会の諸問題に対する応答として成果を得ることができたか。
- 研究領域によらず様々な分野を専門とする人々とも互いに積極的に関わりあい、その交流の中から生み出される「新しい知」のあり方を身につけたか。

- 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的かつ領域横断的な科目を配置し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

- 高度な表現者としての素養を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識と実践力を修得するため、プロジェクト科目および特別研究科目を設置する。
- 自らを批評し研究成果の社会的意義を問うための総合科目を設置する。
- 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために専門科目および制作演習科目を設置する。
- 問題発見力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、研究において必須となる汎用的な能力を育成するため導入科目を設置する。

- 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

多様な背景を持った学生により高度な学習機会を与えるために、積極的な情報発信を行い、面接を主体とした多様な入学者選抜を実施しています。その際、以下のような学生の入学を想定しています。

- 自らの専門領域を活かし、他分野と横断的な探求をする。
- 情報社会の新しいあり方を創造的に開拓する。
- 人や社会との新しい関係性を考え、次世代の産業を創出する。
- 様々な形態の芸術表現から新しい文化を創造する。
- 情報やコミュニケーションに新たな形を与え、地域社会に提案する心豊かな社会の実現をめざす。

全ての大学等において、以下の三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする。

①修了認定・学位授与の方針、②教育課程編成・実施の方針、③入学者受け入れの方針

（学校教育法施行規則一部改正平成28年3月31日改正、平成29年4月1日施行）

学 生

- 芸術、情報、工学、社会科学の出身者等、分野の多様化が進んでいます。
- 社会人経験者が2～4割を占めます。
- ダブルマスター入学者も徐々に増加しています。
- 全国各地からの学生構成となっています。

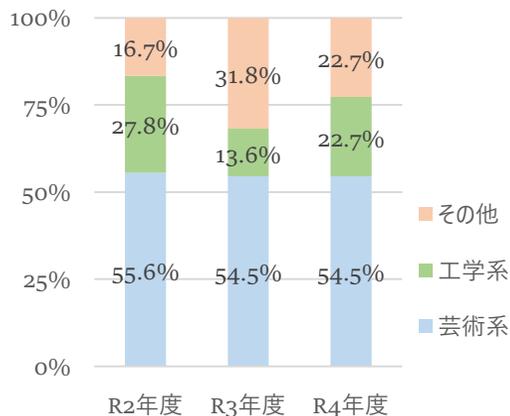
- 修士課程 学生受入状況（人）

	入学者（倍率）	性別		出身地別			経歴別					
		男	女	県内	県外	外国	大卒業	院修了	高専	研究生	専門 学校等	社会人
R4年度	22 (1.3)	17	5	2	18	2	20	1			1	8
R3年度	22 (1.6)	13	9	7	12	3	18	3			1	8
R2年度	18 (1.8)	10	8	2	11	4	17				1	4

- 博士後期課程 学生受入状況（人）

	入学者（倍率）	性別		出身地別			経歴別					
		男	女	県内	県外	外国	大卒業	院修了	高専	研究生	専門 学校等	社会人
R4年度	2 (0.7)	1	1	1	1	0		2				2
R3年度	3 (2.0)	3			3							3

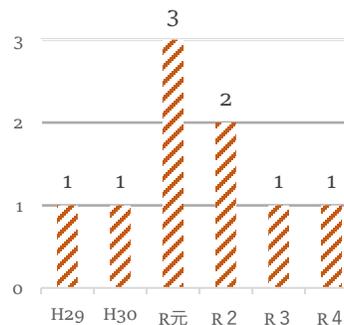
- 出身分野（%）



- 出身大学等

- R4- 大阪芸大、早稲田大、明治大、名古屋造形大、多摩美術大、金沢理工大、九州産業大、電機通信大、立命館大、関西学院大、東北大、秋田公立美大、東京理科大、岡山大、東北学院大、岐阜大（院）、名工大（院）、IAMAS（院）、CHAINA UNIVERSITY OF GEOSCIENCE
- R3- 名古屋芸術大、多摩美術大、豊田工業大、東京藝術大、天津工業大、武蔵野美術大、お茶の水女子大、金城学院大、愛知工業大、九州大、グロービス経営大学院大、同志社大、名古屋学芸大、京都芸術大、慶応義塾大、中国美術学院、日本体育大、関西学院大、スタンフォード大、
- R2- 慶応義塾大、金沢工業大、名城大、日本大学、秋田公立美術大、静岡大、京都造形大、武蔵野美大、東京工芸大、東京都立大、九州大、広島市立大

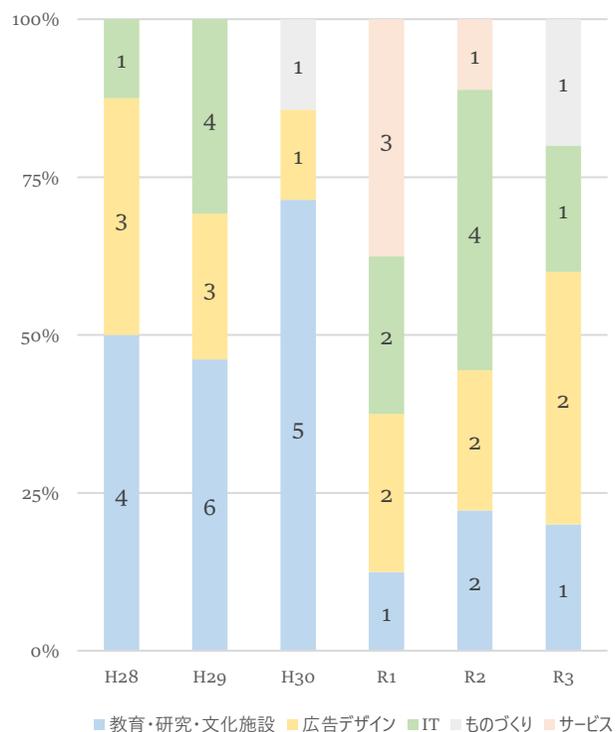
- 研究生の受入状況（人）



進路

- 教育機関や文化施設、広告やデザイン系企業への就職が多い傾向となっています。
- 近年はベンチャー型ものづくり系企業への就職希望者が増加しています。
- 修了生ベンチャー企業（㈱ライゾマティクスや㈱GOCCO、など）で働く者も増加しています。
- フリーランスや自営でデザインやアートなどクリエイティブな仕事をする者は3割程度あります。
- 近年、県内での就職や自営、あるいは居住を希望する修了生が増加し、東海圏における修了生の定着率は高くなっています。

- 進路状況（人）



- 修了生の進路

- 就職先（過去の主な就職先）

- 県内

㈱インフォファーム、㈱TAB、本巣市地域おこし協力隊、岐阜各務野高等学校、中村直永デザイン事務所、Fresh Lab Takayama、（公財）ソフトピアジャパン、㈱GOCCO、ちよいみせキッチン

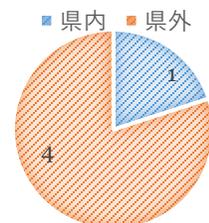
- 県外

NHK、名古屋音楽大学、（公財）京都芸術文化協会京都芸術センター、㈱オルタスジャパン、多摩美術大学、㈱サイバーエージェント、㈱ケイズデザインラボ、ユカイ工学㈱、㈱日本テレビアート、㈱二番工房、京都造形芸術大学、㈱プロノハーツ、Noiz Architects、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、(有) BANZAI CREATIVE、愛知淑徳大学、Takram desing engineering、㈱電通、㈱博報堂プロダクツ、㈱カヤック、（特非）こどもNPO、山口芸術情報センター[YCAM]、京都精華大学、秋田公立美術大学、㈱ゼオ、㈱QUANTUM、神戸芸術工科大学、㈱ライゾマティクス、名古屋芸術大学、㈱Hakbee Lanka、㈱桃鶴堂、㈱丹青社、1-10 drive、都城市立図書館、東京藝術大学、静岡文化芸術大学、同志社女子大学、関西学院大学、ANKR、DESIGN

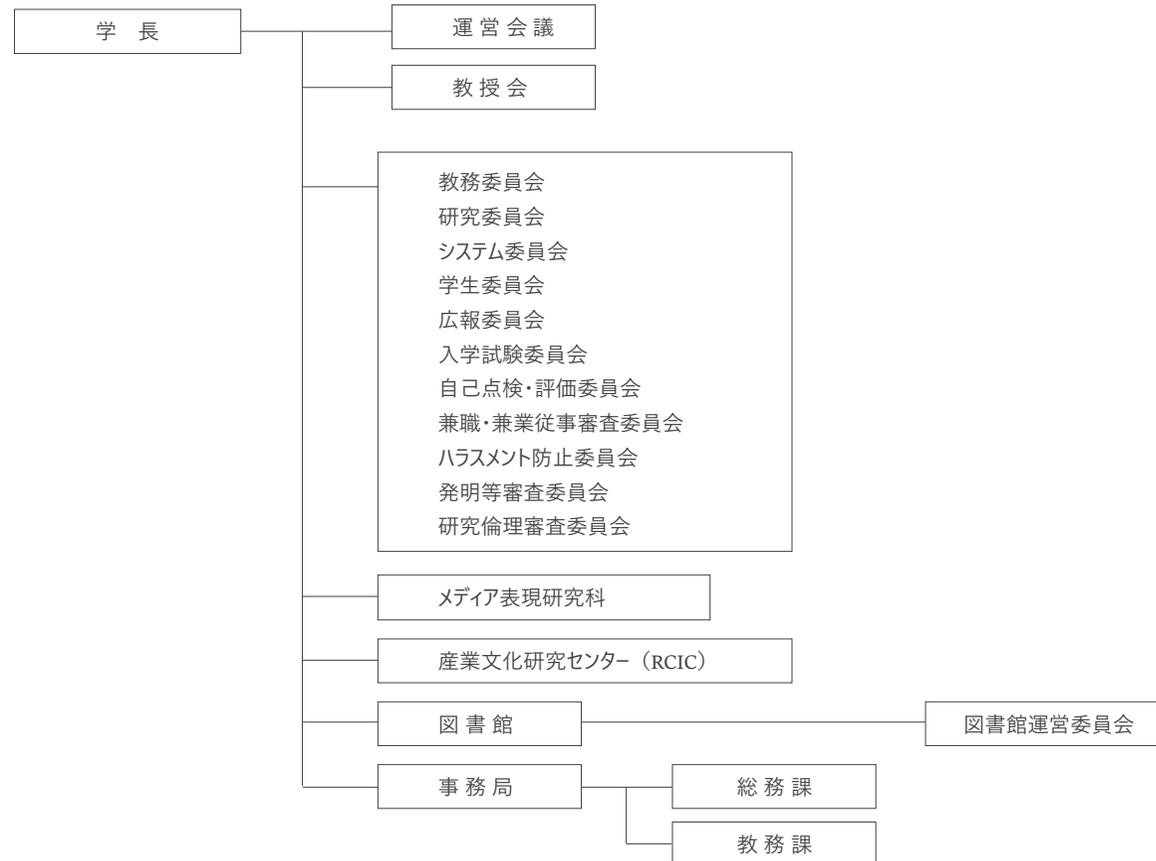
- 進学（過去の進学先）

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程、慶應義塾大学大学院後期博士課程

- 就職先県内外別R3（人）



組織図



教職員数

	教授	准教授	講師	助教	教員合計 (左計)	事務局 職員	専門職等
大学院大学	13	5	0	0	18	11	12
(うち女性)	(1)				(1)	(3)	(7)

RCIC

- 産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は2011年度より開設されたIAMASの附置研究機関です。
- 産業文化に関する学際的・総合的な研究を行うとともに、学外の諸機関との連携を図りつつ、本学の社会的機能を維持・発展させることを目的とし、「地域連携・産学官連携活動」「広報・情報アーカイブ活動」「文化活動」の3つを軸として活動しています。
- 近年は、県内の自治体や企業とのネットワーク構築や、IAMAS卒業生との連携・協力等によるIAMASネットワークの強化にも力を入れながら、様々な活動を展開しています。

地域連携・産学官連携活動

❖ メディア表現を活用した体験型学習のデザイン 「イアマスこどもだいがく」

IAMASの研究や設備を用いた子ども向け講座で、様々なメディアを使用したユニークな表現体験から、テクノロジーを多様に活用する力、延いては新しい「もの」や「こと」を創造する力の育成を目指し、2017年から大垣市と連携し毎年実施しています。

2022年度講座：

「段ボールドームで遊ぼう！」

- 第1回：2022年8月19日(金) 14:00 - 16:00
- 第2回：2022年8月20日(土) 14:00 - 16:00
- 担当：福祉の技術プロジェクト

「映像プログラミング

~クリエイティブコーディング~

- 第1回：2022年9月24日(土) 13:30 - 16:00
- 第2回：2022年9月25日(日) 13:30 - 16:00
- 担当：体験拡張表現プロジェクト



❖ 観光資源を活用したメディア表現研究

株式会社オアシスパークと連携し、IAMASの研究を河川環境楽園オアシスパークの観光資源を活用した形で展開、実践することで、観光地におけるメディア表現の可能性と意義を考察しました。

2022年度企画：

「歩いて読み進む！ARコミック in オアシスパーク」

- 日程：2022年8月19日(金) 14:00 - 16:00
- 場所：園内 せせらぎ広場の大きな橋
- 担当：今谷真太郎 (M2)



「NxPC.Live vol.57 SpinEcho」

- 日程：2021年10月23日(土) 14:00 - 16:00
- 場所：園内 ガラスドーム
- 担当：NxPC.Lab (体験拡張表現プロジェクト)



広報・情報アーカイブ活動

❖ Kioskを使用したポスター展示

Action Design Research Projectが制作した空間デザインシステム「Kiosk」を使用して、IAMASの学校紹介とRCICの連携活動報告展示を行います。ポスター展示だけでなく、IAMAS School Guideや大学院紀要など、各種印刷物の配布も行います。

2022年度展示：

「IAMAS OPEN HOUSE 2022」

- 日程：2022年7月23日(土) -28日(木)
- 場所：ソフトピアジャパンセンタービル1F ふれあい広場

「大垣市役所での展示」

- 日程：2022年11月17日(木) -28日(月)
- 場所：大垣市役所1F 多目的スペース



文化活動

❖ OPEN HOUSE

メディア表現研究科の教員と在学生在が多様な研究成果を発表するイベントです。本イベントは学校紹介や進学相談の機会も担っています。科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を実践する研究科の取り組みを来場者と共有することを目的として、毎年開催しています。2022年度は3年振りにキャンパスでの来場型実施となりました

IAMAS OPEN HOUSE 2022

- 2022年7月23日(土) -24日(日) 10:00 - 17:00
- 実施形態：対面開催*一部オンライン企画有

Iamas open_house: 2021

- 2021年7月22日(木) -23日(金) 10:00 - 17:00
- 実施形態：オンライン((i.frame)) *独自プラットフォーム



❖ Ogaki Mini Maker Faire 2022

様々な分野のつくり手「Maker」たちが全国から集まり、つくったものを見せ、語り、その楽しさを共有するDIYの祭典「Maker Faire」を隔年で企画、運営する。

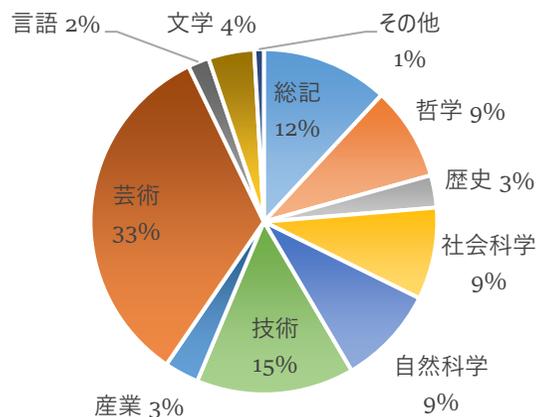
- 2022年12月3日(土) -4日(日)(予定)
- 会場：ソフトピアジャパンセンタービル ソピアホール等、メタバース
- 共催：株式会社オライリー・ジャパン、IAMAS



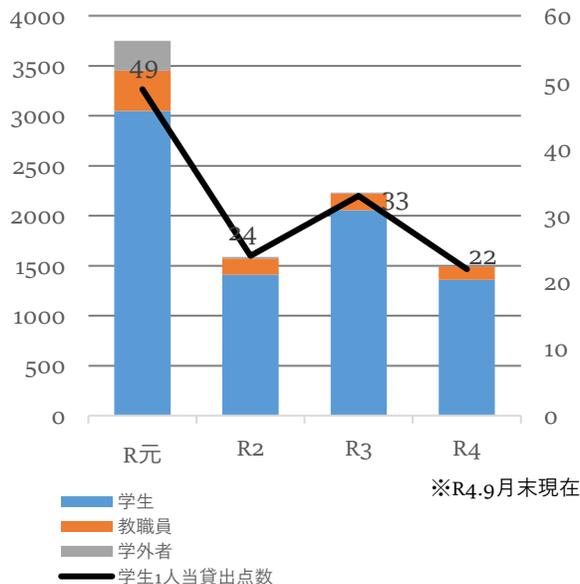
附属 図書館

- 教育研究支援
 - ・メディア表現の教育研究に資する資料を収集しており、蔵書構成では技術や芸術の分野の割合が大きくなっています。
 - ・教職員の協力でテーマを決めての資料展示や、定期的な新着図書案内のメール配信などをおこない、利用促進を図っています。
- 地域貢献
 - ・学外者の入館者数は移転後1,000人以上に増加。公開講座を毎週開催し、地域に開かれた図書館として機能しています。
(新型コロナウイルス感染症対策により、R2年度より学外者の利用を休止中)

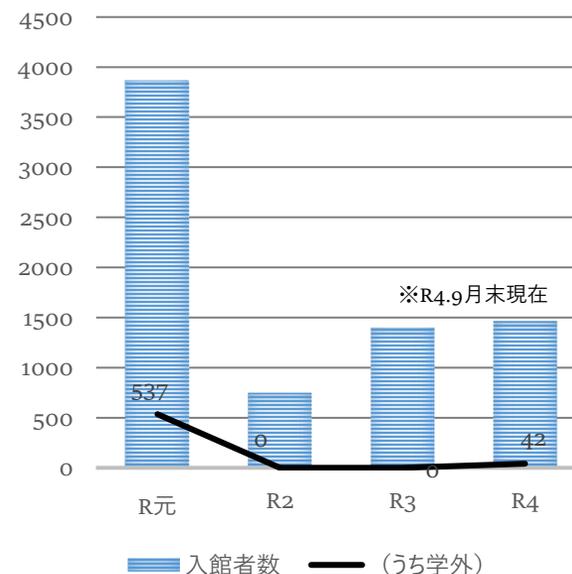
・分類別蔵書割合



・貸出点数



・入館者数



ー 蔵書数 (R4.3現在)

図書	47,177冊
視聴覚資料 (DVDなど)	3,245点
雑誌	158種
データベース	3種
電子ジャーナル	6種

ー 公開講座「今週の一冊」

小林昌廣教授
 ※新型コロナウイルス感染症対策により対面は休止中
 (YouTubeで公開)

ー 資料展示

「NFTとブロックチェーン」(4月)
 「2021年度の本棚から」(5~6月)
 「意識とは何か」(7~8月)
 「メタバースとWeb3」(9月~)



教 育

- IAMASでの授業は、個人、グループ、社会という構成を特色としています。「特別研究科目」は研究活動に対する課題解決に必要な方法等を習得するゼミ形式によるチームティーチングを特色とする科目です。
- 制作演習は、プロジェクト実習や個人制作を行うにあたって重要と思われる実践的なスキルを習得することを目的とした授業です。
- 2019年度から「社会人短期在学コース」を設置しました。また、2021年4月に博士後期課程を開設しました。

- 博士後期課程の設置（2021年4月開設）

IAMASは、修士課程のみの大学院大学として、最新の科学技術や文化を吸収しながら先端的な「芸術表現やデザイン、新しいコミュニティやものづくりのあり方などを社会へ提案し、実践的な研究を通じて「高度な表現者」の育成を目指してきました。

しかし、大学院において設置が一般的な博士後期課程が無いことで（国公立大学における博士課程設置率は約85%）、優秀な人材が他大学を選択したり、IAMASを卒業後に、さらに研究を継続したい学生がやむを得ず他大学の博士課程に進学するなどの課題が生じています。

そのため、修士2年、博士3年、計5年間の一貫教育研究体制を整備し、大学の魅力度を高め、社会実践力のある研究成果を生み出せる体制整備を目的として、博士後期課程の新設を申請し、2020年10月に文部科学大臣より認可を受け、2021年4月に開設しました。

[博士後期課程]

開設年月：2021年4月

修業年限：3年

入学定員：3人

[2021年度入学者]

出願者数：6名

入学者数：3名（男性3名）

[2022年度入学者数]

出願者数：2名

入学者数：2名（男性1名、女性1名）

- 社会人短期在学コースの設置

本学は、2019年度より社会人短期在学コースを設置しました。

このコースは、作品制作や社会活動など何らかの実績がある人々や、企業などで先駆的な研究・開発テーマに取り組んでいる人々を対象とし、本学でそれらの実績を基に研究を進めることを前提として、通常は2年間の大学院修士課程を1年間に凝縮したカリキュラムで実施するコースです。

[コースの特徴]

通常は2年間の修士課程が1年間に凝縮されている他は全く同じ内容のコースとなっており、夜間や休日に開催される独立したコースではありません。

このため、自らの活動を振り返り、関連する分野について学び、徹底的に言語化することに集中できます。また、同時期に在学する他の学生と一緒にチームとして活動することを通じて、異分野の刺激を受け、修了後も継続する関係性を構築することができます。

[2021年度入学者]

入学者数：2名

[2022年度入学者数]

入学者数：3名

研究

プロジェクト型研究:

- IAMASの研究の中心の一つにプロジェクト研究があり、研究の関心や方向性が示されます。これからの社会における創造や新しい社会を創るデザインをテーマにした研究が増えています。
- プロジェクト研究では、広い視野と企画力、組織力、加えてアイデアを実現に導くマネージメント能力などを身につけることを目指します。

体験拡張環境プロジェクト

リアルタイム、インタラクティブな体験には高度なテクノロジーと、テクノロジーを使いこなす表現手法とコンテンツが必要になる。コーディング技術と表現により可能になるクリエイティブコーディングや表現としてのライブコーディングによる音楽や映像を利用した体験やAR, MR, VRと行ったxR技術により実空間とか仮想空間を融合した体験空間の構築、また視覚や聴覚を以外の各種感覚を用いることによる体験の複合化など、高度な技術と表現による体験拡張は急激に進化している。本プロジェクトでは、テクノロジーを使いこなし、テクノロジーに適した高度な表現を研究することで、新たな体験拡張の創造を目指す。音楽イベントNxPC.Labの活動と連携することで、研究を展開する場として効果的に利用し、研究・展開を融合した実践的な研究を進める。

研究代表者：平林真実教授、研究分担者：前田真二郎教授、小林孝浩教授
2021年度～

●2022年度の活動

テクノロジーを用いた表現としてVR/AR/MRといったxRを利用した表現、新たなインタラクションの可能性を模索する作品等の研究を実施している。研究成果はオープンハウス他、コンパ等への応募、学会発表、NxPC.Labの音楽イベント等にて実験と実践を行っている。また、東京コンピュータサービス（株）とMRによる音楽演奏システムAvatar Jockeyの共同研究も実施している。

- ・IAMASオープンハウスにおける作品展示（7月）
- ・情報処理学会エンタテインメントコンピューティング2022発表（2022年9月）
- ・NxPC.Labにおける音楽イベント
 - NxPC.fav 3 @IAMAS Gallery1 2022.4.16
 - NxPC.Live vol.55 おでん[窓] @IAMAS Gallery1/Youtube Live 2022.6.18
 - NxPC.Live vol.56 屋台再開-あせだくつゆだく-暑い夏 @IAMAS Gallery1/Youtube Live 2022.7.23-24
 - NxPC.Live vol/57 SPIN ECHO @オアシスパーク 2022.8.28



Community Resilience Research

大量に生産・消費・廃棄され続けるモノが生痕化石となって、新たな地層を形成しており、社会生態系の破壊の象徴とされる、この「人新世」の時代を、私たちはどう生き、どう変えていくかが求められています。本プロジェクトでは、地域の問題を「社会生態系システムのレジリエンス」として捉え直し、これからの持続可能な地域社会への移行を望む私たちにとって何が大切なのかを探究していきます。社会生態系システムという視点から、各メンバーがフィールドワークを通して見つけた「もの」について、リサーチを深めながら考察し、それを表現していきます。

研究代表者：金山智子教授、研究分担者：小林孝浩教授、吉田茂樹教授
2020年度～

●2022年度の活動

<フィールドワークを中心とするリサーチ>

2022年5月～9月までに根尾地域を中心に20回程度のフィールドワークを実施、古い集落に住む人たちへインタビューを繰り返しながら、長期的かつ円環的な視点から自然と人の関わりについてリサーチした。

<成果の発表>

これまでの研究成果の一部として、2022年10月1日から30日まで、岐阜県博物館にて企画展『ねお展～アジュール(自由領域)であり続ける地域のこれまで そしてこれから』を開催。また、成果はIAMAS2023でも発表し、最終的に本として出版する(2023年春刊行予定)。



タイムベースメディア・プロジェクト

5年目を迎えるタイムベースメディア（TBM）プロジェクトでは、毎週行われるミーティングを中心に、通常の活動と学内外の発表など期間の限られた計画の両方を通して研究を進め、また、学生の作品制作などもこのプロジェクトの実践として位置づけた。様々な『時間内-芸術』を参照しながら、メディアパフォーマンス作品を制作する一方、ネットワーク上の「新しい時空間」における表現の可能性として、ネットストリーミングによる「配信／中継」を試みた。また、外部発表については、これらの制作を通してプロジェクト研究発表会の他、京都のギャラリーにおける三輪・前田による「配信芸術」作品の展示、博士課程後期学生の福島諭の岐阜県美術館における個展などをプロジェクトの活動として位置づけた。

期間：2018年度～

研究代表者：三輪眞弘学長、研究分担者：前田真二郎教授

● 2022年度の活動

2022/05/28-06/19

展覧会ファルマコン2022「新生への捧げ物」

三輪眞弘 + 前田真二郎 + 佐近田展康の『母音廻し、または遠隔音響合成のための五芒星』発表。

主催：art-sensibilisation

協賛：京都芸術大学文明哲学研究所

協力：The Terminal KYOTO、ギャラリー宮脇

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

2022/07/05-09/11

IAMAS ARTIST FILE #08

福島諭「記譜、そして、呼吸する時間」

主催：岐阜県美術館、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

企画：岐阜県美術館（西山恒彦）

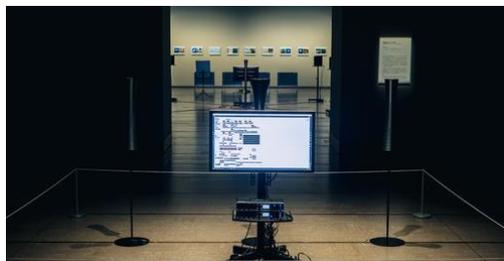
情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

（前田真二郎・三輪眞弘）

協力：IAMAS Time-Based Media Project

2022/07/23,24

TBMプロジェクト展 *M1学生作品発表



IAMAS ARTIST FILE #08 福島諭「記譜、そして、呼吸する時間」展

2022/09/18

サラマンカホールサラマンカホール、佐治敬三賞受賞記念

「ぎふ未来音楽展2022 三輪眞弘 + 福島諭 二人展」

『日々《変容の対象》8月』/作曲:福島諭+濱地潤一(変容の対象)、

映像:前田真二郎(日々“hibi”AUG)発表

主催：サラマンカホール

School for Regenerative Design

私たち人類は、その活動によって地球に大きな影響を与え、さまざまな環境問題を引き起こし、気候変動という難問に直面しています。この問題に取り組むには、「持続可能」を越え「再生可能」へと思考と行動を進めるべきでしょう。このプロジェクトではまず、よい変化の兆候を示す人々、テクノロジー、仕組みを調査します。その上で、学校という最も具体的で身近な「視野」でのプロトタイピングを通じて、革新的な行動と変容を目指します。

期間：2022年度～

研究代表者：小林茂教授、研究分担者教授：ジェームズ・ギブソン准教授、瀬川晃准教授、ホアン・マヌエル・カストロ准教授

● 2022年度の活動

プロジェクトの初年度第1期（6～7月）は「バイオテクノロジー」をテーマに設定し、regenerativeというキーワードに対する理解を深めるため、3組のゲストによる講義を設けた。遊佐陽一氏（奈良女子大学教授）の講義では光合成ウミウシにおける再生と再生産、ちとせ研究所の講義では藻類を活用したバイオ生産の可能性と課題、未来予報株式会社による講義ではSXSWに見られるバイオテクノロジーの動向と課題について学んだ。その上で、それらの講義で共有された知見を参照しつつ、プロジェクトメンバー全員の問題意識を共有し、7月末に開催されたIAMAS OPEN HOUSE 2022でパネルによる展示を行った。これらのパネルでは、regenerative designに関する短い歴史と、regenerative designについての6つの視点を提示した。初年度第2期（9～11月）は「マテリアルとマテリアリティ」をテーマに設定し、ゲストによる講義、映像資料の鑑賞、文献調査などを通じて理解と議論を深めている。

展示

7月23日・24日 IAMAS OPEN HOUSE 2022 《School for Regenerative Design: Unit 1》



福祉の技術プロジェクト

身の回りに潜む身近な課題等を技術を使って解決し、人々の生活を豊かにする活動を行っています。ここでの福祉は、障害者福祉、高齢者福祉などに限定することなく、幅広いテーマを扱います。2021年は防災をテーマに活動を行ってきました。毎年発生する災害から、我々自身どのように備えるか、学校での備え（教育）はどうか、などを行ってきました。

なお、昨年度から新型コロナウイルス感染症対策でオンライン形式で開催してきました。2021年はオンラインでのメリットを活かしながら、必要に応じて対面でのフィードワークを取り入れるスタイルで活動しています。

研究代表者：山田晃嗣准教授、研究分担者：小林孝浩教授
2014年度～

●2022年度の活動

ー 活動紹介の展示（IAMASオープンハウス2021）

昨年から始まった大垣特別支援学校の先生とXR等を用いた防災教育の内容や、岐阜本巣特別支援学校の先生と取り組んでいるハンドベルの内容とそのプロトタイプを展示し紹介しました。



展示の様子

2022年7月23日(土)、24(日)
場所 ワークショップ24 5階プロジェクト室

ー 大垣市主催のイアマス こどもだいがく2022

「段ボールドームで遊ぼう！」として参画しました。段ボールドームの中の光と音による体験遊びや、ギャラリーでのプラネタリウムのような体験が行える工作の実施など、小学校低学年向けのワークショップを実施しました。募集の段階では遊ぶことを全面に出しましたが、災害時でも少し工夫することで同じように光遊びができること、遊ぶことを忘れないでほしいことなどを最後に伝えました。



段ボールドームの中で光と音で遊ぶ子供達

2022年8月19日(金)、20(土)
場所 センタービル3F ギャラリー

場所・感覚・メディア

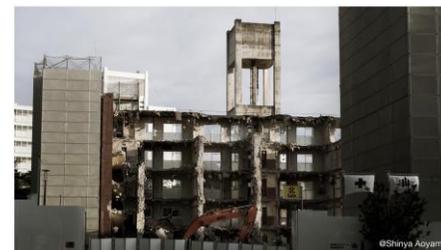
センサリー・メディア（感覚メディア）としての映像や音響による「場所」の表象を多角的に捉え直し、あらたな芸術表現の可能性を探っていきます。視覚文化論、映像・音響人類学、エコリテイニズム等、様々な領域にまたがる研究者や制作者の知見を踏まえ、制作のコンセプトや方向性を検討していきます。

研究代表者：前林明次教授、研究分担者：小林昌廣教授、ジェームズ・ギブソン准教授
2022年度～

●2022年度の活動

トークイベント：『東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート』青山真也監督を迎えて（IAMASオープンハウス2022）

東京五輪2020により強制排除された都営アパート住民の生活を記録した映画『東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート』の青山真也監督を迎えトークイベントを開催し、20数名の参加者とともに議論をおこなった。（2022年7月24日14:00～16:00 オンライン）



展覧会（2022年10月実施予定）
場所・感覚・メディア「柳ヶ瀬」

会期：2022年10月20日～10月30日会場：ピッカフェ（岐阜やながせ倉庫）
「柳ヶ瀬」という場所に焦点をあてた展覧会。集合的な写真作品の『Yanagasense（ヤナガセンス）』では、プロジェクトメンバーそれぞれの視点によって撮られた写真が並べられ重ねられることで、合成されるイメージとしての「ヤナガセ」が浮かび上がる。『メトロノーム・ウォーク in 柳ヶ瀬』では、複数のメンバーそれぞれがメトロノームとマイクを持って歩行した音響的軌跡が、ギャラリー内で複数の線として絡み合う。作品展示だけでなく、ゲストを招いてのトークイベントも同時に開催する。



場所・感覚・メディア

「柳ヶ瀬」

「場所・感覚・メディア」は、情報科学芸術大学院大学（IAMAS）のプロジェクトです。
実際に人が場所を訪れ、感じ、考え、変換し、語り合う、それらが層なり重なり合う空間の中でまたあらたな「場所」が生まれ、わたしたちが「感覚」を体験しています。このようにことをテーマに作品制作に取り組んでいます。
今回は「柳ヶ瀬」という場所に焦点をあて制作をおこなってきました。
集合的な写真作品の『Yanagasense(ヤナガセンス)』では、プロジェクトメンバーそれぞれの視点によって撮られた写真が並べられ重ねられることで、合成されるイメージとしての「ヤナガセ」が浮かび上がります。
『メトロノーム・ウォーク in 柳ヶ瀬』では、複数のメンバーそれぞれがメトロノームとマイクを持って歩行した音響的軌跡が、ギャラリー内で複数の線として絡み合うという場所について語るトークイベントも同時に開催予定です。



外部資金研究

- 公費や財団助成による研究、受託や委託研究と多くの研究が実施されています。
- 一般財団（小川科学技術財団など）の助成を受けている教員も3割程度あります。
- 他機関の研究に研究分担者として参加する教員も増えています。

外部資金研究

科学研究費 / 日本学術振興会 Grant-in-Aid for Scientific Research

- 基盤研究C ◎金山智子教授
H29-R1 コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究
- 基盤研究C ◎松井茂准教授、伊村靖子講師
H29-R1 マス・メディア空間における芸術表現と情報流通の研究
- 基盤研究C ◎カストロ・ホアン・マヌエル准教授
H30-R3 Investigation on wetware art in the post-digital age
- 基盤研究A 三輪真弘教授
H30-R4 1970年代以降の人文学ならびに芸術における語りの形式についての領域横断的研究
- 基盤研究B 鈴木宣也教授
H30-R2 ヴィジュアルリテラシー普及に向けた基準策定とツールの開発
- 基盤研究C 赤羽准教授
R1-R4 時間軸を持つ3Dデータ及び映像・音響データを用いたアーカイブシステムの開発

◎ = 研究代表者

公益財団法人小川科学技術財団研究助成金

- H30-R1 エンターテイメントとしての共鳴現象を引き起こすAIの開発（金山智子教授）
R1-R2 重要民俗無形文化財の継承支援のための四次元データアーカイブ（小林孝浩教授）
R1-R2 デジタルアプリケーションを前提としたデザインシステムの開発（赤羽亨教授）

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化センター

- 重点共同研究 ◎松井茂准教授、前田真二郎教授、伊村靖子講師
R1 マス・メディアの中の芸術家像

京都大学人文科学研究所

- 共同研究拠点 ◎三輪真弘学長、松井茂准教授
R1 「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究

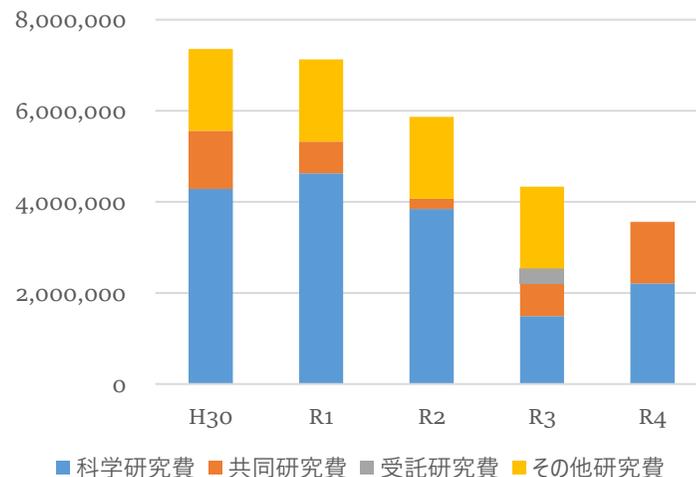
COI拠点「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点」（国立研究開発法人科学技術振興機構）

- H25-R3 小林茂教授

共同研究

- R4 株式会社オアシスパーク 「観光資源を用いたメディア表現の展開における実践的研究」（赤羽教授）
R4 東京コンピュータサービス株式会社 「MR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開の可能性の研究」（平林教授）

外部資金調達額 ※R4年度は10月末まで



受賞

IAMASの学生・教員は、毎年、各種の分野で賞を受賞しています。修士生の活躍については、近年ますます注目されています。

— 2021

天野真（修士2年）
『VOICE | NOISE』
CREATIVE HACK AWARD 2021 ファイナリスト選出

西尾秋乃（修士1年）
『戯れ子ばこ』
イメージフォーラム・フェスティバス2021 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション SHIBUYA SKY賞
ICAF2021 観客賞 5位
第27回学生CGコンテストアート部門 ノミネート
ISCA2021（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2021）国内映像コンテンツ部門 入選作

今谷真太郎（修士1年）
『ARコミック「通路路」』
2021 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー エンターテインメント（産業応用）部門 大賞/福岡県知事賞
第27回学生CGコンテスト エンターテインメント 白井宏旨評価員賞

蓑毛雄吾（2021年卒業）
『time in space, space in time』
2021 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 大賞/総務大臣賞
CREATIVE HACK AWARD 2021 ファイナリスト選出
第27回学生CGコンテストアート部門 ノミネート

MATHRAX〔久世祥三 + 坂本菜里子（2008年卒業）〕
『ステラノーヴァ』
2021 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

スコット アレン（2016年卒業）、高石 圭人、石井 飛鳥、渋谷 和史、リボクカン、小林 篤矢、徳井 直生
『Compressed ideograph -visualized-』
2021 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

内田聖良（2015年卒業）
『バーチャル供養堂』
NEWVIEW AWARDS 2021 VR WORKS部門 ファイナリスト選出

佐藤優太郎（2020年卒業）、今井 健人、小鷹 研理（2007年卒業）
『Slime Hand』
Best Illusion of The Year Contest 2021

武部 瑠人（2021年卒業）
MUTEK.JP 若手クリエイター支援オープンコール選出

加藤明洋（2018年卒業）
『BAIS - Board game as a simulation of future society』
CREATIVE HACK AWARD 2021 ファイナリスト選出

金山智子（教授）
『災後・災間におけるコミュニティ放送による記憶の継承』
社会情報学会 2021年度優秀論文賞受賞

山辺真幸（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）（2003年卒業）・中川草（東海大学医学部基礎医学系分子生命科学）・脇田玲（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）
『新型コロナウイルスゲノム系統樹の3次元可視化』
可視化情報学会第49会可視化情報シンポジウム・アートコンテスト大賞

内田聖良（2015年卒業）
アーティスト・イン・レジデンスプログラム2021 “invisible connections” 採択

鈴木宣也（教授）
『プロトタイピングへ向けたアイディエーションツールの検討』
日本デザイン学会第68回研究発表大会グッドプレゼンテーション賞

全体統括・企画・クリエイティブディレクション：川寄鋼平（2004年卒業）

Earth Cuisine #2「BAMBOO SWEETS」
2021 One Show
Merit: IP & PRODUCTS部門 - Physical Product / Shortlist:
DIRECT MARKETING部門 - Physical Items / Shortlist:
EXPERIENTIAL & IMMERSIVE部門 - Physical Products /
Shortlist: IN-HOUSE部門 - Agency-Initiated & Originated
Projects / Shortlist: IN-HOUSE部門 - Social Impact / Shortlist:
PRINT部門 - Promotional Items -Physical Products
第100回 ADC賞
Bronze: BRAND / COMMUNICATION DESIGN部門 -
Innovation / Shortlist: IN-HOUSE部門 - Design for Good - In-
House / Shortlist: IN-HOUSE部門 - Brand / Communication
Design - Packaging Design / Shortlist: PACKAGING DESIGN部
門 - Food / Beverage - Food - Series

金山智子（教授）
第71回「電波の日」総務省東海総合通信局長表彰

三輪真弘（教授）
第52回（2020年度）サントリ-音楽賞

三輪真弘（教授）、前田真二郎（教授）、松井茂（准教授）
『ぎふ未来音楽展2020 三輪真弘祭 - 清められた夜-』
第20回佐治敬三賞

蓑毛雄吾（修士2年）
『digitized saxophonist』
NAGOYA NEW クリエイター映像AWARD 審査員特別賞/レゴランド®・ジャパン賞

藤本遼太郎（修士2年）
『CircleStair』
NAGOYA NEW クリエイター映像AWARD リニア・鉄道館賞

ー 2021

テクニカルディレクター・ハードウェアエンジニア：鈴木健太（修士2年）
「劇団ノーマーツ」
第24回文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門 優秀賞

ヨフ（大原 崇嘉／柳川 智之（2013年卒業）／古澤 龍）
「2D Painting [7 Objects, 3 Picture Planes]」
第24回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品

鈴木英倫子（2007年卒業）
「Barricade」
第24回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品

テクニカルディレクション：天野真（修士1年）
『UNLABELED – Camouflage against the machines』
第24回文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門 審査委員会
推薦作品

田中良治（2000年卒業）
「Tokyo TDC ウェブサイト」
第23回 亀倉雄策賞

— 2020

企画・監督・総合監督・プロデューサー：若見ありさ（2000年修了）
音楽：松本祐一（2003年修了）

『Birth-めぐるいのち』

福井映画祭2020 アニメーション部門 グランプリ

あいち国際女性映画祭2020 観客賞（オムニバスの一編）

第2回石垣島・湘南国際ドキュメンタリー映画祭 グランプリ（オムニバスの一編）

毎日映画コンクール アニメーション映画賞・大藤信郎賞 ノミネート

アニメーション：若見ありさ（2000年修了）

音楽：松本祐一（2003年修了）

『プリズン・サークル』監督：坂上香

令和2年度文化庁映画賞 文化記録映画大賞

若見ありさ（2000年修了）

映文連アワード2020 優秀クリエイター賞

武部瑠人（修士2年）

『Se[real] Lighting Killer』

2020 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー エンターテインメント（産業応用）部門 入賞

テクニカルディレクション：天野真（修士1年）

『UNLABELED – Camouflage against the machines』

2020 60th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS クリエイティブイノベーション部門 ACCゴールド

INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2020「デジタルコンテンツ部門 優秀作

守下誠（修士2年）

「ARカメラアプリ《ARama!》:身の回りの人や物を素材にして自由に遊ぶ。」

異能vation 破壊的な挑戦部門 ゼロワンチャレンジ 採択

テクニカルディレクター・ハードウェアエンジニア：鈴木健太（修士2年）

「劇団ノーマーツ」

2020 60th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS クリエイティブイノベーション部門 ACCゴールド

大越円香（修士1年）

『もちゆくもの／The things we hold and keep』

ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2020 選出

プロデューサー・ディレクター：川崎鋼平（2004年修了）

地球料理 -Earth Cuisine-「Bamboo Galette」

2020年度グッドデザイン賞

プロデューサー 一般社団法人メディア・アンド・クラフツ 中原淳

（2006年修了）、山口歩那（2015年修了）

デザイナー カッコイイ合同会社 中村親也（2015年修了）

シェアオフィス [GIDS]

2020年度グッドデザイン賞

坂本菜里子（2008年修了）

「風のうたよみ」

六甲ミーツ・アート芸術散歩2020

制作: MATHRAX（久世祥三＋坂本菜里子）

tsuchifumazu（綿貫岳海（2018年修了）・佐藤海里）

映像作家100人2020

CHO YONG HYUN（修士1年）

「Growling for snare drum and live electronics」

New York City Electroacoustic Music Festival 2020

地域貢献活動

・地域貢献活動の一環として、企業を対象とした岐阜イノベーション工房、高校生等を対象とした岐阜クリエイション工房を行っています。

岐阜イノベーション工房

岐阜イノベーション工房2021

－ シンポジウム “辺境”の探索

「イノベーション工房」は、イノベーション創出に挑戦するための風土を岐阜県内に醸成することを目的として、IAMASが2018年から主催する事業です。

イノベーションの方向性には大きく分けて深化と探索の2つがあります。深化とは、自社にとっての成熟事業において、成功しそうなものを見極め、磨きこんでいく活動で、探索とは、自社や自社の認知の範囲を超え、新興事業などを通じて遠くに認知を広げていこうという行為です。企業が継続していくためには、深化と探索の両方に取り組むものが必要ですが、多くの企業は短期的に成果が見込める深化に最適化する傾向があり、中長期的に必要となる探索を上手く行うことができません。

本シンポジウムでは、アーティストの福原さんから様々なアートプロジェクトに至る多彩な事例とその背後にある考え方を伺います。

第1部：基調講演（小林茂教授）

第2部：話題提供と議論

第3部：「岐阜イノベーション工房の紹介」

[話題提供と議論登壇者]

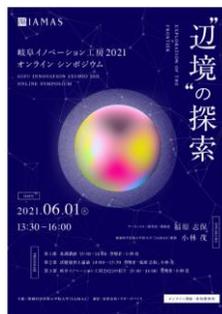
福原志保氏（アーティスト、研究者、開発者）

小林茂教授

2021年6月1日(火) 13:30 - 16:00

会場 オンライン (Google Meet)

小林茂教授



－ 岐阜イノベーション工房2021 (ワークショップ)

岐阜イノベーション工房は、IoT・AI・デジタル設計／製造など、急速に浸透しつつある技術の世界的な変化およびその本質を学び、自ら製品・サービスのアイデアを創出し、実際に体験できるプロトタイプをつくることまでを体験することにより、イノベーション創出に取り組める人材を育成するプログラムです。

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] がこれまでに確立してきた、デザイン思考とシステム思考に関する知見の中で、製品・サービスの開発に応用できる部分を短期集中の演習プログラムで学び、その後の実習プログラムで深めます。

(参加企業) 4チーム 14人

(株) A I アクティブ : 3名

(株) イマオコーポレーション : 4名

(公財) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

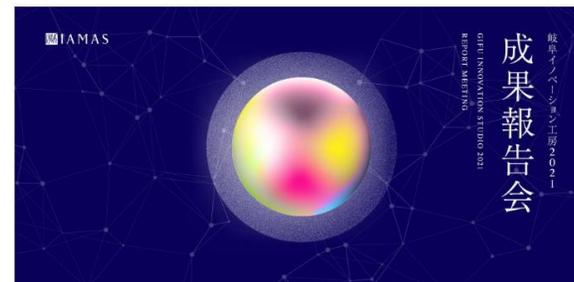
: 5名

(株) 十六総合研究所 : 2名

2021年7月 - 2021年3月

会場 オンライン (zoom)

小林茂教授



－ イノベーション工房2021 成果・進捗報告会

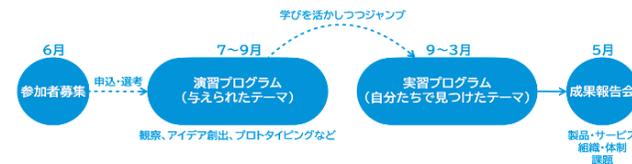
2021年の事業全体を振り返るとともに、参加企業が実習プログラムにおいて取り組んできた成果について報告しました。報告会には、参加企業関係者以外にも、イノベーションや新規事業創出に関する手法に興味のある方等にも参加いただき実施しました。

全プログラム終了後に参加企業に対して実施したアンケートでは、「社内からはでない、新たな気づきがあったよかった。」等の意見をいただきました。（新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインにて実施）

2021年3月24日(木)13:00 - 15:00 ZOOMウェビナー

岐阜イノベーション工房2022

岐阜イノベーション工房2022スケジュール



(参加企業) 6社 4チーム 11名

エム・ビー・エス(株) : 4名

(株) 量子情報 : 3名

(株) 横田仏壇店、川崎文具店 : 2名

八洲製作(株) : 1人

サクラボテクノロジーズ合同会社 : 1名

2022年9月末現在

岐阜クリエイション工房

岐阜クリエイション工房2021

本学では、2019年度から、人文知と工学知の界面であるメディア表現に取り組む「アーティスト」たちと高校生などの若者たちが、ともに試行錯誤しながら作品をつくることを通じて、発想力や想像力を学ぶワークショップ「岐阜クリエイション工房」を実施しています。

2021年度は、3つのワークショップを開催しました。

総合ディレクター//小林茂教授 (IAMAS)

－ワークショップ1 食のパーソナライゼーションから考える新しいコミュニケーション

内容：自分で食品を作り、共に食べることで、また第三者にシェアしたときに発生したコミュニケーションまでを撮影し、自身と他者との感覚の差異や気持ちについて、ディスカッションを通して、「おいしい」について考察を深めます。

講師：木村亮介氏 (株)GOCCO 代表取締役
平塚弥生氏 (株)Coneru 代表、フードコンサルタント

日程：2021年8月 - 9月 (全6回)

参加人数：高校生4人

－ワークショップ2 未来の“まつり”を想像する－影絵と音楽で紡ぎ出すオンラインアソシエーション (共同体)－

内容：昔から人々は祭りを通して技術を継承したり、世代を超えたコミュニティを築いてきました。オンライン上のコミュニケーションが増え、祭りも消えゆく昨今、私たちはどうやってアソシエーション (つながり・共同体) を築いていくのか？未来にあり得るかもしれないオンライン上の祭りを、影絵と音楽を通して想像、創作しながら考えていきます。

講師：宮内康乃氏 作曲家、「つむぎね」主宰
川村亘平齋氏 影絵師、音楽家

日程：2021年8月 - 9月 (全7回)

参加人数：高校生1人、大学生1人

－ワークショップ3 AIのまなざしと作るPhotobook－AIを通じて世界を再発見しよう－

内容：現代社会では、顔認証などのAIを用いたシステムが発達し、私たちの生活は便利になりました。本ワークショップでは、顔認証を使い「顔のように見える植物」を探すなど、AIの本来の使い方ではない「誤用」を通して、一味違ったPhotobookづくりに挑戦し、AIと私たちの関係について考えます。

講師：青木聖也氏 Artist, Visual & AI researcher
中嶋亮介氏 Programmer at Qosmo, inc

日程：2021年8月 - 9月 (全6回)

参加者：高校生8人



岐阜クリエイション工房2022

高校生等24人が参加し、下記3つのワークショップを実施中。
12月3日、4日開催予定のOgaki Mini Maker Faire2022において、作品展示及び成果報告会を開催予定。

- ワークショップ1 モノからクッション (9人)
- ワークショップ2 自分の電子楽器をデザインしよう (9人)
- ワークショップ3 NFTとGenerative Art (6人)



IAMAS イベント

- 毎年、修了研究発表会・プロジェクト研究発表会を開催し、成果の発表を行っています。
- 隔年で岐阜おおがきビエンナーレおよびOgaki Mini Maker Faireを開催し、新しいアートやものづくりに関する発信を行っています。

IAMAS2022 第20期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会[修了展] Graduation and Project Research Exhibition

IAMAS 2022は第20期生による修了研究発表会および 2021年度のプロジェクト研究発表会である。本展覧会はコロナ禍と呼ばれる時代に悩み、議論し、作り上げた修士作品を社会に問う場であり、一つの大きな区切り―「あがり」の契機とも捉え、構想された。IAMASという環境に一区切りをつけることを一つの大きな目的とした本展覧会は過去最大数のトークイベントを有する形を伴って実施された。

2022年2月20日(日) – 2022年2月23日(水・祝) 10:00 – 18:00 (初日のみ13:00から)
ソフトピアジャパンセンタービルほか

- Program

事前公開

- 修了研究紹介動画 Vol.1 (天野真・阿部和樹)
- 修了研究紹介動画 Vol.2 (永井歩・中南賢治・甲斐知彦)
- 修了研究紹介動画 Vol.3 (遠藤五月・赤迫瑠奈)
- 修了研究紹介動画 Vol.4 (石田駿太・田口悠平)
- 修了研究紹介動画 Vol.5 (黄凡嘉・MENON Kartika Mohandas)
- 修了研究紹介動画 Vol.6 (西田騎夕・幅田悠斗・鄧玉潔)

2.13 [土] (事前公開)

“都市の音を聴くということ。”
ゲスト：田中堅大、丸山翔哉、太田遥月 / 主催：天野真

2.19 [土] (事前公開)

“分散型オンラインイベント
「メタ・モ (二コ) メント2021」とは何だったのか？ 会談”
主催： Archival Archetyping
“ISLAND STUDY- OKISHIMA”
ゲスト： 富田雅美、前林明次、小林昌廣、ジェームズ ギブソン
主催：黄凡嘉

2022.2.20(日)

“夢現” 主催：While choosing a costume.
“NxPC.Live vol.53 GRADUATION EXHIBITION”
主催：NxPC.Lab

2022.2.22(火)

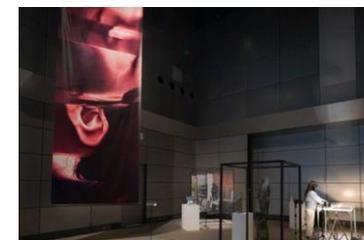
“密着！IAMAS24時” 主催：IAMASzenly部

2022.2.23(水)

“クリティカル・サイクリング早朝耐寒ライド”
主催：クリティカル・サイクリング

会期中のトークイベント (タイトル・登壇者のみ抜粋)

開会式&オープニングトーク「あがりの儀式」とは？ (西田騎夕/天野真/徳毛郁哉) / 流通 (中南賢治/西田騎夕) / 筑波×慶應SFC×IAMAS—ものづくり/研究— (天野真/幅田悠斗) 自己分析系研究についての考察 (赤迫瑠奈/Kartika MENON/天野真) / 教育を研究する僕らはなぜIAMASに来たのか (甲斐知彦/渥美智也/伊村靖子准教授) / IAMASに3年間居るといふこと (幅田悠斗/赤迫瑠奈/守下誠) / NxPC.Liveの楽しみ方 (西田騎夕/石田駿太/中南賢治) / 修士研究公開面談—リフレクションをリフレクションする— (鈴木宣也教授/幅田悠斗) / 「さみしい」ってなに？ (西田騎夕/石田駿太/ボトス) / 修士研究工房2021 (小林茂ゼミ) を振り返って (阿部和樹/天野真/渥美智也) / テクノロジーの使い方 (守下誠/徳毛郁哉/天野真) / Pharmakon Brothers (天野真/石田駿太) 日本の電子音楽/クラブシーン (渥美智也/中南賢治/大谷芳之) / 69音目のひらがな：形と音でみる言語の違い (阿部和樹/黄凡嘉/路雨嘉) / 修士研究公開面談—「作品」について語る編— (クワクボリョウタ教授/赤迫瑠奈/遠藤五月) / 元社会人からIAMASへ入学した人達 (阿部和樹/永井歩) / 「触」について (川田祐太郎/田口悠平/幅田悠斗) / 異文化への憧憬/忌避 (鄧玉潔/石田駿太/松村明莉) / 留学生から見たIAMAS (黄凡嘉/Kartika MENON/鄧玉潔) / 平林真実の真実 (平林真実教授/甲斐知彦/永井歩&中南賢治) / IAMASを通して建築について話す (田口悠平/徳毛郁哉/阿部和樹) IAMAS2022 卒展総括 (西田騎夕/天野真/徳毛郁哉&石田駿太)



IAMAS OPEN HOUSE 2022

開催概要：

メディア表現研究科の教員と在学生在が多様な研究成果を発表するイベントです。本イベントは学校紹介や進学相談の機会も担っています。科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を実践する研究科の取り組みを来場者と共有することを目的として、毎年開催しています。2022年度は3年振りにキャンパスでの来場型実施となりました。

本年度の来場者数は23日が132名、24日が89名の二日間で計221名となりました。学校紹介が4件、個人・有志企画が12件、プロジェクト研究が14件の計30企画が展開されました。この中で対面のみの実施が21企画となっており、全体の7割の企画が来場型鑑賞を希望しての実施となりました。大学院の開設から過去最大の出展数であった本イベントは、ソフトピアジャパンセンタービルならびにワークショップ24内にある学内施設のほとんど全ての場所を使用する形で実施されました。

開催日時：2022年7月23日(土)-24日(日) 10:00-17:00

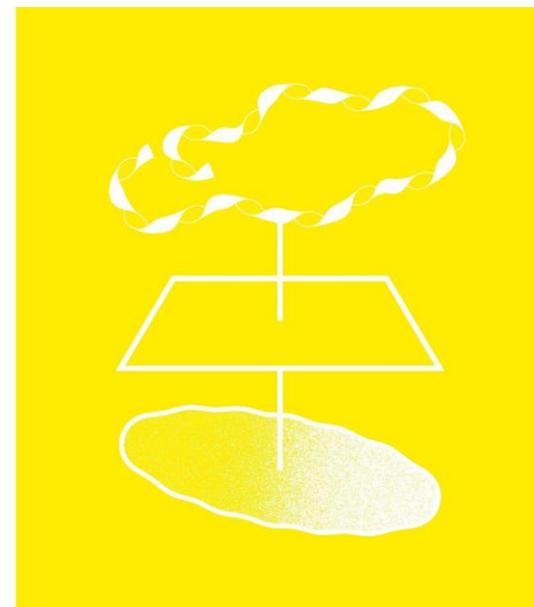
実施形態：対面開催*一部オンライン企画有

開催企画一覧：

レシピと所作（門田健嗣）/進学相談会（IAMAS OPEN HOUSE 2022実行委員会）/進学説明会（IAMAS OPEN HOUSE 2022実行委員会）/変身〜有象無象〜（ぶり）/＜身体＞融和のためのプロトタイプ・パフォーマンス（永富美里）/学内ツアー（IAMAS OPEN HOUSE 2022実行委員会）/私と私が視る＜私＞ I and me saw “Myself” パネルディスカッション（新里尚平、清水慶彦）/autopoiesis/self（Hyun-Mook Lim）/NxPC.Live Vol.56 『屋台再開-あせだくつゆだく-暑い夏-』（NxPC.Lab）/歩いて読むARコミック（今谷真太郎）/鏡面で織物（武村祥太郎）/Kioskを使用したポスター展示（産業文化研究センター [RCIC]）/扇風機？（門田健嗣）/TBMプロジェクト展（タイムベースド・メディアプロジェクト）/きつと、それは想像の身体（新垣隆海）/Frame（森田明日香）/博士後期課程2年生がいま考えていること（福島諭×石川琢也×神谷泰史（博士後期課程2年学生）×小林茂（2年生学年担当教員）×金山智子（1年生学年担当教員））/School for Regenerative Design: Unit 1(School for Regenerative Design Project)/食事する映像（細野竜矢）/幽(かす)かな風景を集める（小林玲衣奈）/EEE-Exhibition（体験拡張表現プロジェクト）/福祉の技術プロジェクト（福祉の技術プロジェクト）/CRR フィールドノート2022（Community Resilience Research）/トークセッション「VRの“言葉”と、私たちについて。」（新垣隆海）/風の孔（徳毛郁哉）/3枚の画面 12枚の画像 4枚の瓶（太田宙）/大垣祭りサーテレポートと、より多くの市民の包摂に向けた提案の試み（美濃佑輝）とうめいなもじ こえのないことば（習作）（長野櫻子）/トークイベント：映画『東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート』青山真也監督を迎えて（場所・感覚・メディア）/パラソル・キッチン・トライク、夢の途上（Critical Cycling）

IAMAS OPEN HOUSE 2022

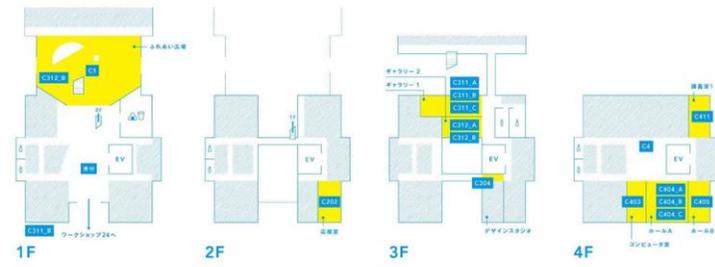
10am - 5pm
23 - 24 JULY
2022



IAMASオープンハウス 2022

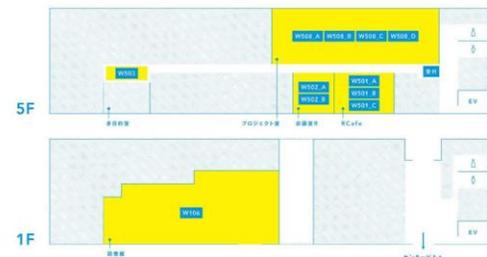
ソフトピアジャパン センタービル

- C1 Kioskを使用したポスター展示
- C4 歩いて読むARコミック
- C202 変身〜有象無象〜
- C204 鏡面で織物
- C211.A NxPC.Live Vol.56 屋台再開-あせだくつゆだく-暑い夏-
- C211.B 歩いて読むARコミック
- C211.C 扇風機？
- C212.A autopoiesis/self
- C212.B 食事する映像
- C402 扇風機？
- C404 A トークセッション「いま考えていること」
- C404 B 石川、神谷、小林、金山による対談
- C404 C 大垣祭りサーテレポート
- C405 美濃佑輝の試み
- C406 夢の途上
- C407 Frame



ワークショップ24

- W106 映画鑑賞 120分映画 400分
- W107.A 映画鑑賞 120分映画 400分 観るだけでいい
- W107.B 映画鑑賞 120分映画 400分 観るだけでいい
- W107.C 映画鑑賞 120分映画 400分 観るだけでいい
- W107.D 映画鑑賞 120分映画 400分 観るだけでいい
- W108.A School for Regenerative Design Unit 1
- W108.B EEE-Exhibition
- W108.C 福祉の技術プロジェクト
- W108.D CRR フィールドノート2022
- W109.A パラソル・キッチン・トライク、夢の途上
- W109.B 美濃佑輝の試み



MAP



佐治敬三賞受賞記念 「ぎふ未来音楽展2022 三輪真弘＋福島諭 二人展」

日本の音楽界で独自の存在感を示してきた作曲家・三輪真弘の2020年度のサントリー音楽賞（三輪真弘）と佐治敬三賞（サラムカホール）のダブル受賞を記念し、サラムカホール主催による「ぎふ未来音楽展2022」、作曲家・福島諭との師弟「二人展」と、特別ゲストを迎えての記念シンポジウムが開催された。

2022.9.18 (Sun)

14:00～16:00

主催：サラムカホール

共催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

プログラム：

弦楽四重奏曲 八長調「皇帝」、弦楽六重奏曲「369 Harmonia II」、虹機械 Koan-001／作曲：三輪真弘

五管の木管アンサンブルとコンピュータの為の《春、十五葉》(2015)／作曲：福島諭
『日々《変容の対象》8月』／作曲：福島諭＋濱地潤一（変容の対象）、映像：前田真二郎（日々“hibi”AUG）

演奏：

ヴァイオリン：亀井庸州、辺見康孝

ヴィオラ：安田貴裕、迫田圭

チェロ：多井智紀、川上統

クラリネット：鈴木生子、櫻田はるか、芹澤美帆

オーボエ：山口裕加

サクソフォン：濱地潤一

ピアノ：山内敦子

映像送出：森田了

演奏パネリスト：三輪真弘、福島諭、岡田暁生

モデレーター：浦久俊彦

いま明かされる…あの作曲家の余韻とは
未来を奏でる、未来を語る、コンサートとシンポジウム！

SALAMUKA SELECTION

佐治敬三賞受賞記念
ぎふ未来音楽展2022
三輪真弘＋福島諭 二人展

Miwa

2022.9.18 sun
14:00開演(13:00開場) サラムカホール 岐阜市東山町1-1-1

Fukushima

◆ コンサート
14:00～16:00(予定)

◆ シンポジウム
コンサート終演後～17:00
～第52回サントリー音楽賞受賞 & 第20回佐治敬三賞受賞記念～
テーマ:三輪真弘を「みる・きく・よむ」～いま、三輪真弘の音楽を語る～

IAMAS ARTIST FILE #08 福島諭「記譜、そして、呼吸する時間」

情報科学芸術大学院大学[IAMAS]と岐阜県美術館との連携事業「IAMAS ARTISTFILE」は2013年に始まり、本展で第8回目となる。今回は、IAMAS博士後期課程に在籍する福島諭の個展だ。コンピューターと木管楽器による室内楽作品の空間展示を中心に、福島諭が以前より進めてきた、他者との交換形式によって創作した音楽や平面、映像作品などを展示した。また、福島と同様に作曲から造形へ表現を拡張した佐藤慶次郎(1927-2009)による電子オブジェも同会場で特別展示を行った。

岐阜県美術館 [展示室2]
2022.7.5 (Tue) - 9.11 (Sun)
10:00~18:00 [入場は17:30まで]

主催：岐阜県美術館、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
協力：IAMAS タイムベースメディア・プロジェクト



岐阜県美術館 展示室2 展示会の様子

企画：
岐阜県美術館（西山恒彦）
情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]（前田真二郎・三輪眞弘）

観覧者数データ：
7月5日～9月11日（54日間）
観覧者合計 3686人

関連プログラム

コンサート「エレクトロニックラーガのための室内楽」
8月28日（日）14:00-15:30
出演：福島諭、福島麗秋、濱地潤一、飛谷謙介(Mimiz)
ゲスト：石川喜一(ピアノ調律師・美術家)

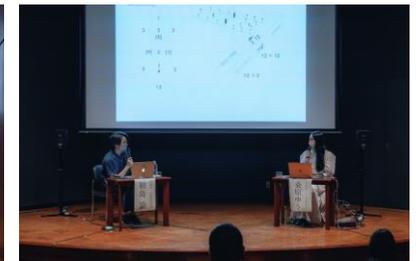
佐藤慶次郎が制作した《エレクトロニック ラーガ》（1979年、岐阜県美術館所蔵）のための楽曲を、福島諭がこの日のために作曲。本コンサートでは、その初演を含む3曲が上演。石川喜一氏による《エレクトロニック ラーガ》についてのミニ・レクチャーも開催。

7月17日(日) 14:00-15:30
福島諭 アーティストトーク
日時：7月17日（日）14:00～15:30（受付 13:45～）
会場：岐阜県美術館 講堂
出演：福島諭（本展出品作家） 桑原ゆう（ゲスト）

岐阜県美術館で開催中のIAMAS ARTIST FILE #08 福島諭「記譜、そして、呼吸する時間」の関連イベントとして、「福島諭アーティストトーク」を開催。ゲストは、昨年、第31回芥川也寸志サントリー作曲賞を受賞し注目が集まる作曲家の桑原ゆう氏。



コンサート「エレクトロニックラーガのための室内楽」



福島諭アーティストトーク

第4回展示ねお展 アジュール自由領域であり続ける地域のこれまで そしてこれから

本本市北部の中山間部に位置する根尾は、他の地方同様に限界集落化がすすんでいる地域です。しかし、「根尾」という存在感は決して失われたわけではなく、今もそこには「祖先から受け継がれた生き抜く精神」が脈々と息づいています。

1500年以上、存在し続けている根尾地区は、さまざまな人たちにとって聖域、避難所、無縁所、あるいは自由な領域、つまり「アジュール」であり続けてきました。「ねお展」では、限界集落化が進む根尾地区が、時代の変化の中でどのように存在し続けてきたのか、7年間のフィールドワークを通じて得た資料や、根尾地区の伝統行事である「能郷の能・狂言」や「根尾盆踊り」の写真・映像を交えて紹介します。

- 1 開催日 令和4年10月1日(土)～30日(日)
- 2 時間 9:00～16:30 ※入館は16:00まで
- 3 会場 岐阜県博物館マイ・ミュージアム棟2階 マイミュージアムギャラリー
- 4 出展者 情報科学芸術大学院大学(IAMAS) + (一社)よだか総合研究所



MI MY MUSEUM
GALLERY

岐阜県博物館
ギャラリー通信
マイ・コレクション No.200

2022年
10月1日(土)
～30日(日)

ねお展

マイミュージアムギャラリーのみの
入場は無料です

休館日 毎週月曜日
但し、10月10日(月)～10月14日(金)、10月11日(火)は閉館

出展者 情報科学芸術大学院大学(IAMAS)
Community Resilience Research
一般社団法人よだか総合研究所

Ogaki Mini Maker Faire

Ogaki Mini Maker Faire2020

Maker Faireは、「Maker」（メイカー）と呼ばれる、ものづくりの愛好家たちが全国から集い、電子工作やロボット、クラフト、電子楽器、サイエンス工作などに関する展示や発表を行い、相互に交流することで、ものづくりの楽しさを共有するイベント。6回目の開催となった2020は、新型コロナウイルス感染症が流行する中での開催となりましたが、会場とオンラインを組み合わせ、多様なMakerによる作品展示のほか、オンラインでのライブ、プレゼンテーションなどを実施した。

開催日：2020年12月5日(土) - 12月6日(日)

開催場所：ソフトピアジャパン・センタービル

主催：Ogaki Mini Maker Faire 2020 実行委員会、共催：(株)オライリー・ジャパン

総合ディレクター//小林茂教授

出展者 物理会場 33組（東北1組、関東9組、中部19組（うち岐阜県7組）、関西4組）

オンライン会場 10組

プレゼンテーション 14組、対話型プレゼンテーション 2組、パフォーマンス 1組

来場者数 延べ650人

（新型コロナ感染症対策のため、事前予約制とし、入場者数を制限して実施）

[関連企画]

ー 岐阜クリエイション工房2020 作品展示・講習会

会場内において、作品展示を行うとともに、オンラインにてワークショップ講師による講習会及びトークイベントを開催。

ー 作品展示

2020年12月5日(土)-12月6日(日)

物理会場内（ソフトピアジャパン・センタービル内）

ー 講習会・トークイベント

2020年12月5日(土)14:00-15:30

オンライン会場（YouTubeで配信）



Ogaki Mini Maker Faire 2022

7回目となる今回は、物理会場での展示に加え、メタバース会場での展示を計画中。

開催日：2022年12月3日(土) - 12月4日(日)

開催場所：ソフトピアジャパン・センタービル

主催：Ogaki Mini Maker Faire 2020 実行委員会、共催：(株)オライリー・ジャパン

総合ディレクター//小林茂教授

出展者 物理会場 100組

来場者数 延べ4,000人を想定

[関連企画]

ー 岐阜クリエイション工房2022 作品展示・成果報告会

会場内において、作品展示を行うとともに、成果報告会を開催予定。

岐阜おおがきビエンナーレ2021 国際シンポジウム 『LIF---E!?!』 (オンライン開催)

今回は、国際シンポジウム「LIF---E!?!」 部分的に生きているもの、エクストリーム・バイオロジー、エイリアン生命」と題し、多様なゲストを迎えて、オンライン形式で実施しました。

本シンポジウムでは、アート、哲学、化学、生物学、宇宙生物学からのアプローチを集結し、「生命らしさ」に対するモダニズム/ポストモダニズム思考を超えることを目指しました。

海外からの登壇者も多く、逐次・同時通訳の対応を行い、日本及び海外から、広く参加者を募りました。

2021年12月17日(金) - 12月19日(日)

オンライン開催

ディレクター//ホアン・カストロ 准教授 (IAMAS)

- 12月17日 (金) 17:50~19:00

特別講演「マイクロパフォーマティビティについて」 Jens Hauser (コペンハーゲン大学)

Q&A

- 12月18日 (土) 15:00~18:45

セッション1：部分的に生きているもの

「ウイルスから考える生命らしさ」 中屋敷均 (神戸大学)

「医の知の対話」 小林昌廣 (IAMAS 教授)

「微小なウェットウェアを目指して」 豊田太郎 (東京大学)

セッション2：エクストリーム・バイオロジー

「人間と非人間のためのエコゾフィーと平和」 四方幸子 (キュレーター)

「TBA」 長谷川愛 (アーティスト)

- 12月19日 (日) 15:50~19:40

セッション3：エイリアン生命

「TBA」 山岸明彦 (東京薬科大学)

「地球外マテリアル・エージェンシー」 ホアン・カストロ (IAMAS 准教授)

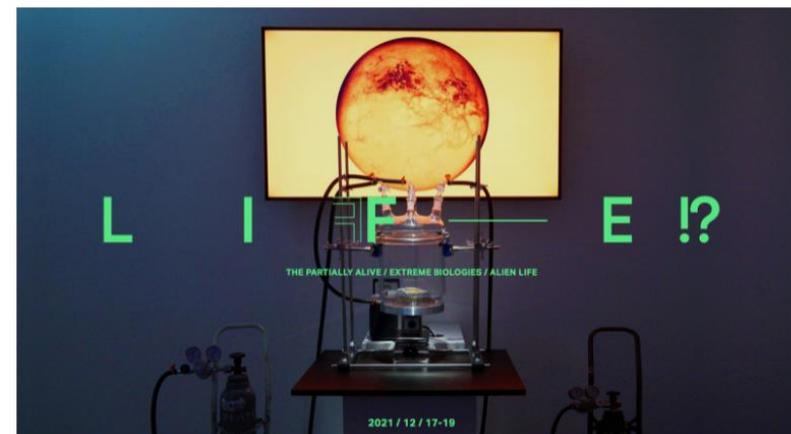
「TBA」 Andy Gracie (アーティスト)

「エイリアン知能とマテリアル・(ノン) フィクション」 久保田晃弘 (多摩美術大学)

ディスカッション

Jens Hauser、Andy Gracie、山岸明彦、久保田晃弘、四方幸子、小林昌廣、

ホアン・カストロ



共同研究 受託研究

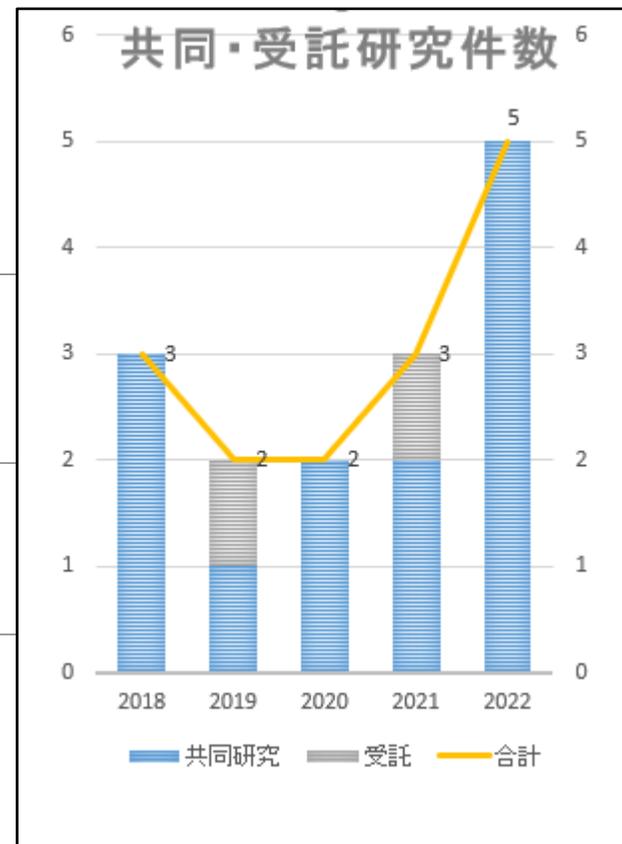
※ 共同研究 : 必ずしも研究資金の授受を問わず、人材交流や技術・施設の共用による研究であり、契約を締結したもの
 ※ 受託研究 : 官公庁、自治体や民間企業などから受託して行う研究

2022.09現在

- 共同・受託研究

2022年度 (令和4年度)	<ul style="list-style-type: none"> - 東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》 テーマ:MR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開の可能性の研究 - 東京コンピュータサービス(株)(赤羽亨教授) テーマ:デジタルツインを活用した映像インスタレーションの設計 - (株)オアシスパーク(赤羽亨教授) テーマ:観光資源を用いたメディア表現の展開における実践的研究 - (公財)岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(赤羽亨教授) テーマ:学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究 - 大垣市 (平林真実教授) テーマ:メディア表現を活用した体験型学習のデザイン
2021年度 (令和3年度)	<ul style="list-style-type: none"> - 東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》 テーマ:MRを用いた表現システムの開発とその展開の可能性の研究 - 本巣市《鈴木宣也教授、金山智子教授》 テーマ:森のアートプロジェクトに関する共同研究 - 大垣市 (平林教授) テーマ:メディア表現に関する体験型学習のためのワークショップデザイン
2020年度 (令和2年度)	<ul style="list-style-type: none"> - 東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》 テーマ:MRを用いた表現システムの開発とその展開の可能性の研究 - Acoustics Spectra Communication 《小林孝浩教授》 テーマ:意識レベル指標としての心拍測定技術の研究
2019年度 (平成31年度/ 令和元年度)	<ul style="list-style-type: none"> - ローランド㈱ 【受託研究】《小林茂教授》 テーマ:携帯用APP開発における、下記の2工程におけるユーザー心理とその研究 ① ターゲットユーザー層へのインタビューを通じた思考調査と情報分析 ② プロトタイプ等を用いたユーザーリサーチの実施とその有効性の検証 - 大広《鈴木宣也教授、金山智子教授》 テーマ:広告クリエイターによるものづくりプロトタイピング
2018年度 (平成30年度)	<ul style="list-style-type: none"> --大広《鈴木宣也教授、金山智子教授》 テーマ:広告クリエイターによるものづくりアイデアエーション - 長良川鉄道《平林真実教授、金山智子教授》 テーマ:長良川チャギントン人形列車 - 稲葉商店《金山智子教授、瀬川晃准教授、山田聡研究員》 テーマ:複合的な文脈から体験する食のデザイン研究

- 共同・受託研究件数



- 2022年度の共同研究活動紹介

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館との連携実績

テーマ：学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館と連携し、博物館が実施する子ども向け講座「第3回ジュニア宇宙博士認定講座」の学習資源を活かした学習環境のデザインングをIAMASの施設「イノベーション工房」を用いて展開しました。

目的と成果：

講座のトータルデザインを通して、参加者の学習意欲を高められるような環境の提供を目指すと共に、IAMASのデザイン研究を実践することで、そのプロセス、及び効果について考察することを目的に運営しました。今年度の講座テーマである「ロケット」をモチーフに、小学校高学年から中学生の子どもたちが学びや達成感を自覚的に得られるよう、全6回の講座を通し活用していく教材のデザイン、制作を行いました。受講した子どもたちからは、デザイン性の高い教材に講座への期待感を高める発言や、講座で得た気づきを積極的にシートに記入していく様子などが見受けられました。デザインプロセスの面では、各回の内容に応じたレイアウト変更や、講師や博物館スタッフなど、デザイナー以外の第三者でも編集可能なフォーマットに関して、全6回の講座の中で展開を重ねたことで知見を得ることができました。

デザインした教材：

- ロゴマーク
- スライド
- ワークシート
- リフレクションシート
- 合格証
- 惑星・衛星シール
- 修了証

IAMASの役割：

本連携における本学の役割としては、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館との打ち合わせを元に、教材制作を担当しました。修了証に関しては、本学の施設「イノベーション工房」の設備であるレーザー加工機や真空成形機、UVプリンターなどの活用を提案し、博物館とデザイナーの協力のもと制作しました。



○ ワークシート

○ 合格証

○ 惑星・衛星シール

○ 修了証

連携先：岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

連携期間：2022年5月22日(日) - 2022年8月7日(日) (全6講座)

担当教職員と協力者：

- デザイン：大山千尋 (IAMAS卒業生)
- 制作：伊澤 宥依 (RCIC)
- 制作補助：浅尾 楽 (M1)、門田 健嗣 (M1)
- 運営：赤羽 亨 (RCICセンター長)、中畑 竜憲 (事務局)、佐々木 紘子 (RCIC)

▼ 講座内で教材が活用される様子



①スライドや博物館の展示物を見たり、実験したりしながら、学んだ知識や実験結果などをワークシートに記入して行く形で講座が展開されます。また、講座終了時のリフレクションシートへの記入を通して、自身の取り組みを評価し、頑張りを見えさせます。



②ワークシート、及びリフレクションシートについては、講座スタッフが内容を確認しながら机間指導を行い、合格証に惑星・衛星シールを貼ってまわることによって、他己評価も繋げます。



③合格証に全6講座分のシールが貼られるとジュニア宇宙博士認定に認定され、認定式で修了証が授与されます。書き溜めたワークシートやリフレクションシート、合格証はファイリングし、自身の取り組みの成果物として持ち帰ります。

出版 広報

- IAMASの研究や各種の活動について認知や関心を高めるための広報活動を行っています。
- 教員による研究や活動を掲載する「紀要」や、プロジェクト成果を纏めた冊子など、IAMASの研究活動の記録も行います。

2022.09現在

情報科学芸術大学院大学紀要

Journal of Institute of Advanced Media Arts and Sciences

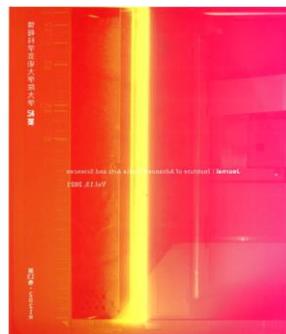
第13巻 2021年

[特集]

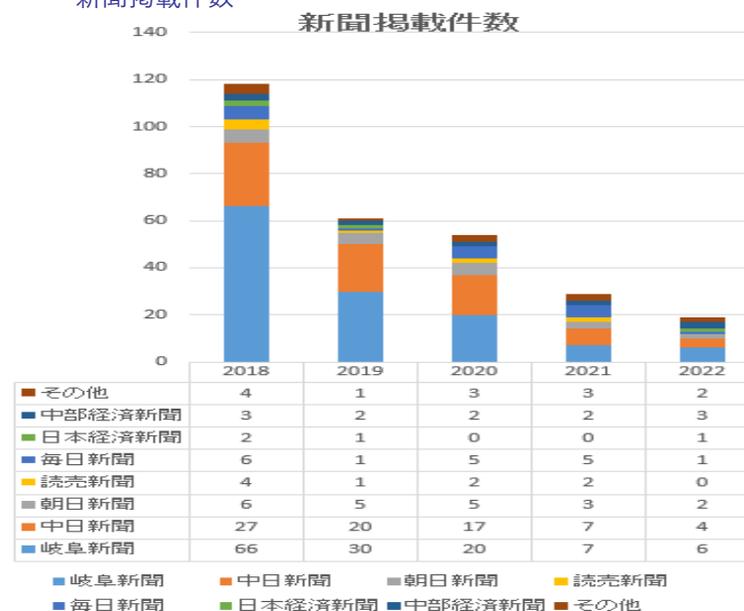
- メディア表現学会（仮称）
オンラインにおける表現とプラットフォームを「共集性」から考える
配信をめぐる表現の現在を問う
- <NFTアート>の可能性と課題
シンポジウム：<NFTアート>の可能性と課題
インタビュー：IAMAS Graduate Interviews VOL.24

[研究ノート]

- 日本音響デザイナー協会と演奏会シリーズ「音の展覧会」
- 花手水が生み出す新たなコミュニティ
- アクターネットワーク理論から考察する異種混交的なネットワーク
- ビクトリアル・ターンとしてビジュアル・リサーチ・メソッドの可能性
- アートベース・リサーチとしての位置づけの検討に向けて



新聞掲載件数



雑誌掲載 ※2022.9現在



「REAR」
2021年10月号

『REAR (10月号)』で、小林昌廣教授の記事が掲載されました。
『記録と再生の倫理学／世阿弥の倫理学～A I 美空ひばりをめぐって』



「美術手帖」
2021年12月号

『美術手帖 (12月号)』特集にて、卒業生の高尾俊氏・真鍋大度氏の記事が掲載されました。



デザイン誌「idea」
2022年7月号

デザイン誌『idea(7月号)』で、卒業生の田中良治氏の記事が掲載されました。
『特集 田中良治 光るグラフィック』

運 営

- IAMASの運営に関する予算は以下のとおりとなっており、歳入の約8割は岐阜県予算から措置されています。

(千円)

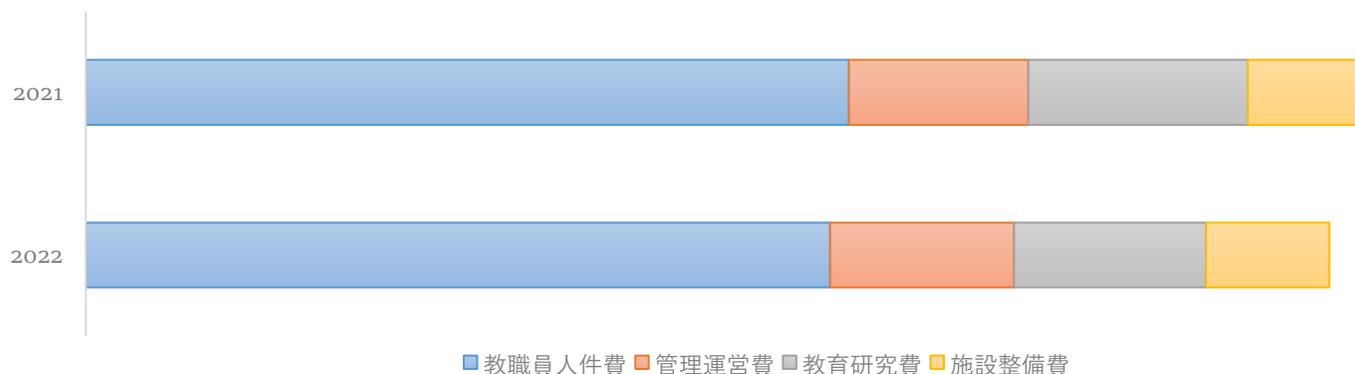
－ 歳入の部

	2022	2021
県費〔一般財源〕	453,102	466,240
入学金・授業料	34,007	32,248
その他手数料等	11,092	15,286
国庫補助金等	16,636	18,260
共同・受託研究等	14,800	14,800
科研費等	5,600	5,600
その他収入	169	167
県債〔一般単独事業費〕	0	0
合 計	535,406	552,601



－ 歳出の部

	2022	2021
教職員人件費	320,532	328,627
管理運営費	79,080	77,191
教育研究費	82,723	94,529
施設整備費	53,071	52,254
合 計	535,406	552,601



[主な用途]

管理運営費：校舎維持、非常勤講師、広報、入学試験
 教育研究費：PJ研究、教員研究、特別給付生
 施設整備費：校内システム設備整備、図書館運営

(単位:千円)

一 授業料、入学料その他の費用

- 入学前に必要な費用

入学金
 県内の者:226,000円
 県外の者:338,000円

- 在学時に必要な費用

授業料
 年額 535,800円
 前期 04月30日までに納付
 後期 10月31日までに納付

- 入寮者のみ

寮費 22,800円/月
 共益費 35,000円/年 (前納)

- 授業料減免に関する情報

学業に精励し、人物健全な者で、次の各号のいずれかに該当する場合、授業料の減免または 納入期限の延長が認められる場合があります。

1. 生活保護法第6条第1項に規定する被保護者の世帯に属する者
2. 長期疾病、生業の不振又は失業のため、その生計が著しく不良となり、前号の被保護者に準ずる程度に困窮していると認められる世帯に属する者
3. 天災その他の災害により著しく損害を受け、学資の支弁が困難な世帯に属する者
4. 知事が別に定める基準により情報科学芸術大学院大学特別給費生として認めた者
5. その他知事が特に減免等の必要があると認めた者

一 情報科学芸術大学院大学に対する大学評価（認証評価）結果

情報科学芸術大学院大学は、公益財団法人大学基準協会による2021年度大学評価（認証評価）の結果、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。

認定期間:2022年4月1日 - 2029年3月31日

一 中期目標及び中期計画

情報科学芸術大学院大学中期目標及び中期計画を策定し、IAMAS WEBに掲載しています。(独立行政法人化されていない大学の策定は任意)

計画期間:2018年4月1日 - 2024年3月31日

一 運営事業費(当初予算額)の推移(人件費を除く)



※2019年度は、管理運営費に学生寮外壁等修繕工事費を含む



学 生 支 援

- IAMASの学生は、多様な専門分野、様々な地域から入学があるため、進路についても多様な要望に対応する形で支援しています。
- 学生の皆さんが、研究や制作活動に打ち込めるよう生活についての支援も行っています。

- キャリアセミナー

学生が進路を検討するために必要な支援を行っています。

- 第1回キャリアセミナー 2022年4月8日(金) 午前 * オンライン開催
テーマ: OB/OGの紹介
- 第2回キャリアセミナー 2022年5月6日(金) 13:20~16:30 * オンライン開催
古い磁場産業からどのような可能性を生もうとしているのか、そもそも家業を継ぐとはどういうことか、家業のイノベーションとは何か、地域やまちづくりとの関係などをテーマに講師から話を伺いました。
講師: 玉川 幸枝さん (たまがわ・ゆきえ)
玉川釉薬 役員 / 合同会社プロトビ・TILEmade 代表
- 第3回キャリアセミナー 2022年9月26日(月) 13:20 - 16:25 * オンライン開催
在学生が進路を考える際に参考となるよう、身近な本学修了生からの声を聴く機会を提供しています。
松本典子さん 合同会社BYNUMBERS 展示システム系の会社を運営
永松歩さん フリーランスでクリエイティブ系の制作、作品制作等
五十川泰規さん 佐藤研吾建築設計事務所
ミスタニ タマミさん 多摩美術大学助手、作家活動

- キャリアカウンセリング

学生一人一人に対し、担当教員が進路について面談を行っています。

- 国際交流員

海外出身の教員や交換留学生のサポート、IAMAS研究成果の海外発信などのため、自治体国際化協会(クレア)「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を活用し、国際交流員(Coordinator for International Relations [CIR])を受け入れています。

学生の研究活動にも大きな支援となります。

- 交換留学制度

IAMASでは、海外の教育機関との学生交流事業を実施しています。

このプログラムは、学生に海外で豊かな経験を積んでもらうもので、毎年2名が提携校に1~3か月留学するとともに、提携校の学生がIAMASに滞在し、互いに交流を深めます。

現在の提携校: リンツ美術工芸大学(オーストリア)

* 2022年度: M1学生1名留学、リンツ工芸大学学生1名を受入。

- 学生寮 [RIST]

学生寮 [RIST] は、IAMASから約1.3Kmの住宅街に位置し、ユニットバス、ベッド、電気調理器具など快適さと機能性を備えた生活空間となっています。また、学生が利用しやすい寮費としています。(オール電化のためガス調理器具・暖房は使用できません。)

大垣市藤江町1丁目1-7

全40室(洋間)



- 仮眠室

夜間の帰宅困難時はセンタービル2階に、仮眠を取ることができる和室があります。研究活動で疲れた身体を癒します。

- 保健室

月曜日から金曜日(休日を除く)の午前9時~午後3時45分の間はセンタービル3階の保健室に常備薬を置き、怪我の応急処置に看護師が対応します。健康に関すること、毎日の暮らしに関すること、精神面のことなどの相談に対応するほか、気分の優れないときには休養室で横になって休むことができる場所となっています。

- カウンセリングルーム

月に4~5回(火曜日または金曜日:12時30分~16時30分)、センタービル3階保健室2では、随時カウンセリングを行っています。臨床心理士の2名のカウンセラーが交代で対応します。

- シャワールーム

ドリームコア6Fにあるシャワールームを利用することができます。

入 試

- 入学生の獲得に向けて、毎年、進学相談会を実施するとともに、夏にはオープンハウスを開催しています。
- また、入試に関する相談や学校見学は随時受け付けています。
- 芸術系や情報系の他の大学教員に向けて、本学教員からの依頼状を添えて募集要項を送付し、入学生の獲得に取り組んでいます。

IAMAS OPEN_HOUSE2022

2022年7月23日(土)-24日(日)の2日間にわたり、「iamas open_house: 2022」を開催しました。今回は3年ぶりにIAMASキャンパスで開催するもので、間近で教員・学生の研究や作品、パフォーマンスを見ていただくとともに、進学相談会、進学説明会、学内ツアー等を通じて、教員や在学生との交流を図る機会となりました。

**IAMAS
OPEN
HOUSE
2022**

10am - 5pm
23 - 24 JULY
2022



進学相談会

本学教育課程の主な流れと研究活動について紹介し、入試日程や入試方法、出願手続きなどについて説明しています。

日時 2022年7月23日(土)～24日(日) 11:00～12:30
場所 ワークショップ2 4 5 F Rcafe (配信有)

進学相談会

本学への進学を考えている方のために、本学教員が、受験、制作・研究の進め方、学校生活などの相談を受けています。

日時 2022年7月23日(土)～24日(日) 10:00～17:00
場所 ワークショップ2 4 5F 会議室R (対面のみ)

【参加者数】

進学説明会

7月23日(土) : 合計20名 (対面: 9名 + オンライン: 11名)
7月24日(日) : 合計14名 (対面: 7名 + オンライン: 7名)

進学相談会

7月23日(土) : 17名 (全18枠中)
7月24日(日) : 17名 (全18枠中)

博士後期課程2年生が今考えていること

7月24日(日) : 合計45名 (対面: 11名 + オンライン: 34名)

